

地域共生ステーションと 自治会活動

- 避難行動要支援者の取り組み
- ワークショップ、協同労働

久美浜一区自治会

避難行動要支援者の取り組み

- 久美浜一区 9区、50隣組、570世帯、約1500人
- 防災を重点的に取り組み、水災害避難行動タイムライン、防災計画
- 現状、年1回区長が、台帳を見直しちょっと修正するぐらい
- 法令改正、個別避難計画、京丹後市の努力義務、取り組み内容変更
- 改めて、いい機会なのでしっかりやろう
- 市職員、民生児童委員、地域共生ステーション、区長で取り組みの説明、進め方、役割分担などを打ち合わせ。5月。
- 取り組み後、防災訓練時に実際に実施。8月。
- 避難マップを作成(十楽区)、どこに、だれが、誰を。

まちづくりワークショップ、協同労働

◇会長、協同労働の説明会に出席

- ・地域の課題が協同労働のしくみを使って解決
- ・自治会役員が定期的に交代することの課題の解決

申し合せ、山林管理、地区要望、補助金申請等
専門的、継続、経緯や伝統、記録

「自治会サービス」が協同労働のしくみでできないか

◇古村さんに相談、会長のニーズでスタートするよりは、話し合っで共に働くという趣旨で、みんなで検討する

◇地域のメンバーによるワークショップ方式で課題を検討

結果の方法として、ボランティア・自治会・行政・協同労働

まちづくりワークショップ



まちづくりワークショップ

- 運営 自治会と地域共生ステーション協同
- メンバー 地域の50歳代以下、中学生、地域おこし協力隊
自治会の若手事務局長、地域共生ステーション
ファシリテーターは、丸山さん
- テーマ あるといいいな、困っている、事業としてできないか
- 回数 11月～、月1回、計5回
- 雰囲気 中学生や子育て世代、身近な課題で、わいわい
- 事例 中学生が、家の外で勉強できる場所
幼児が、日曜日の雨の日に親と遊べる場所
- 今後実施 福祉センターの部屋をリニューアル、ワンコイン。
当初実行委員方式、将来は協同労働で継続して。